

平成27年度 新富町立上新田中学校 学校評価書

4段階評価		4 とても良い 3 良い 2 少し悪い 1 悪い						
重点目標	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者評価委員の意見	
1 家庭・地域との連携	1	学校は、保護者や地域の声や願いに応える教育を積極的に行っている。	○ 完全とは言えないまでも保護者の声や地域の方の声を反映しながら取り組んできた。(菜の花プロジェクトや調理など)	3.10	3.17	3.4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページを毎日楽しみにしている。また、学級通信も良く出してもらってるので、学校の様子がよく分かるし、情報がしっかり届いていると感じている。 ○ 体育大会などの行事で生徒の堂々とした態度が素晴らしかった。立志式では、親からの手紙を読んで涙ぐんでいる生徒もあり、心に残る式になったと思う。 ○ 学校が、昔のように地域になじんできた気がする。学校に足を運びやすくなった。 ○ 地域に受け皿があることもだが、その受け皿としっかり協力しながら、地域の力を生かして様々な取組(菜の花プロジェクトなど)に取り組んでいる。学校のカリキュラムに位置付けられていることが素晴らしい。 ○ 卒業生が、後輩の取組に関心を持ち、活動を見に来たり、椎茸を採りに来たりしていることは、学校と地域がつながっていて素晴らしいと感じている。
	2	学校は、各種の便りやホームページ、保護者会等を通して重点目標やどのように取り組むかについてわかりやすく伝えている。	○ 校長室便りや、ホームページで学校の様子を知らせるなかで、学校が大事にしていることや考え方を伝えられたと考えている。	3.51	3.75			
	3	学校は、参観日や行事などで、保護者や地域住民と交流ができる機会を適切に設けている。	○ 保護者からの要望等には、しっかりと話を聞き対応している。地域の声を取り入れるためにさらにアンテナを高くしたい。	3.29	3.25	3.4		
	4	学校はPTA会費や教材費など、保護者から集めたお金について適切に処理し、保護者にもきちんと説明している。	○ 参観日(63%、63%)やオープンスクールを計画的に実施したが、参加率の向上が課題である。 ○ 金銭については、扱いに注意を払い、適切な処理を行う事ができた。教材費未納の対応に困った。	3.53	3.50			
	5	教職員(担任)は、各種の便りや保護者会等を通じて、子どもの生活状況や学級の様子を日常的に伝えている。	○ ホームページも11万アクセスを超え、情報発信をしっかりと行う事ができた。学級通信も学級差があるものの全クラスが発行した。	3.31	3.33	3.1		
	6	教職員(担任)は、生徒の良いことや気になることについて、電話や家庭訪問などで、家庭との連絡をきめ細かく行っている。	○ 家庭との連絡は担任だけではなく、部活動、保健室からも行った。しかしながら、保護者の中にはもっと細かいことでも情報を伝えて欲しいとの要望もあり、今後もきめ細かな連絡に努めたい。	2.84	3.00			
	7	子どものことについて、教職員に気軽に相談できる。	○ 一昨年度、昨年度に比べると今年度は、「教職員に気軽に相談できる」と回答した保護者の割合が向上している。	3.10	3.17			
2 きめ細かな指導による学力の向上	8	学校は、楽しく分かりやすい授業を実践してくれている。	○ 校内研修会において全職員が1回は研究授業を行い、指導方法を工夫した。	2.93	3.00	3.1	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習でスマホ等に時間をとられていたが、今年度のスマホ等のルール作りのための話し合いがあったのを機会に、少しずつ勉強に向かうようになってきた。 ○ レベルアップコンテストは、頑張れば賞状がもらえるので、生徒にはとても励みになっているようだ。これからも続けて欲しい。 ○ 学力が上がってきているのは、とても良いことだ。生徒の学習意欲が高まる授業の工夫をこれからもお願いしたい。
	9	一人一人の学力を伸ばすためのきめ細かな指導が適切に行われている。	○ 国語、数学、英語において少人数指導を取り入れ授業を展開した。 ○ こうした取組の中で生徒の学習への集中力が高まり、3年生を中心に学力の向上が見られた。	2.92	3.33			
	10	家庭学習のための課題については、適切に与えられている。	○ 宅習や課題の提出状況は個人差が激しいため、継続的な取組が必要である。	3.14	3.00			
	11	教職員は、子どもの個性をよく把握し、適切な評価や声かけをしてきている。	○ 生徒による授業評価を実施し、それを教科担任へフィードバックすることで授業改善を行った。 ○ 生徒への声かけが全体に増えてきたと考えている。	3.07	3.25			

	重点目標		評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者評価委員の意見
3	生徒に自信をもたせる取組の推進	12	教職員は、一人一人を大切にした学級経営・いじめのない集団づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の間人間関係に配慮しながら、生徒の座席を決めたり、他人の良さに気づかせる指導を行ったりして、よりよい集団作りに努めてきた。 ○ スマホとネットの問題を人権教育として捉え、生徒会や保護者と協力しながら継続的に取り組んでいる。 ○ 部活動は良く取り組んでいる。しかし部活動に入っていない生徒が多いことが課題である。 ○ 人前で発表させるなど、活躍させる場を意図的に増やし、ほめられる機会を多くすることにより、集団行動やあいさつ運動の向上や生徒会活動の充実につながってきた。 	3.00	3.42	3.3	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校に来ると、最近では「いい香り」がするような感じがする。それは、生徒の明るい態度や笑顔で体を向けてしっかり挨拶する姿が醸し出しているからだと思う。そうした姿からも、自分自身に自信をもっている雰囲気を感じる。 ○ この項目を重点目標にして取り組んでいることも素晴らしいが、保護者の評価も職員の評価も同じように高く、確かな成果が現れていることがうかがえる。保護者の期待に学校がしっかり応えている。
		13	部活動は適切に行われている。		3.24	3.33			
		14	生徒に自信をつけさせるために、授業や行事等において、生徒が発表したり、活躍したりする場が十分に設定されている。		3.18	3.33			
4	小学校との連携他	15	小学校との連携を図る授業や取組が適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度までの取組（小中合同研修会、サマースクール、読み聞かせ）だけでなく、部活動体験や交流活動も実施できた。 ○ 小中で共通して学習する時にの決まり「いきいき4ヶ条」を実践した。 ○ 小中合同漢字・計算コンクールを行った。また、新たに優れた宅習ノートを相互に掲示し合う取組も行った。 ○ 生徒会活動の充実により、規律ある行動ができるようになった。しかしながら、ネットスマホでの人間関係のトラブルが依然としてあるため、継続的な取組が必要である。 ○ 健康振り返りカードを実施することにより、自分の健康について考える機会にした。弁当の日の取組も定着してきた。 ○ 発達段階に考慮しながら、定期的に全校一斉性教育を実施している。 ○ ネットスマホの問題に、人権教育とも関連付けて、生徒会や保護者と連携しながら継続的に取り組んでいる。 	3.08	2.92	3.1	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校との連携については、外部からは見えにくく評価しにくい項目ではあるが、小中一貫を控えているので、しっかり取り組んで欲しい。新田学園の取組も参考にしたい。 ○ 昨年度の取組を受けて今年もスマホやネットの問題に取り組んでいることが素晴らしい。またその成果を他の学校にも紹介できたのもよかった。今後もこの取組は継続してもらいたい。 ○ 思いやりの心を育てる取組をしていると思うが、それでも教職員が課題意識を持ち評価を低くしているのは、よいことだと思う。今後どう取り組んでいくのかを楽しみにしたい。 ○ それぞれの項目で点数が昨年度より向上したが、それだけしっかり取組がされていると思う。また、1年生の保護者には、学校の取組が見えにくい部分もあるので配慮をお願いしたい。
		16	思いやりの心やルールを守る態度、協調性など心を育てる授業や教育活動が適切に行われている。		3.10	2.92			
		17	生命や安全、健康について学ばせる授業や教育活動が適切に行われている。		3.08	3.09			
		18	性教育や情報教育、人権教育など、今日的な課題についての教育も適切に行われている。		3.07	3.42			

次年度の方向性についての校長所見

- 1 家庭・地域との信頼関係を維持・発展させるために、家庭・地域へ今後も積極的な情報発信を行い、気軽に話し合えるようにしていきたい。
- 2 きめ細かな指導による学力の向上を図るために、次年度も全員が授業公開を行いながら学習指導法の工夫改善に努めていきたい。また、家庭とも連携して、自主的な学習習慣の定着を量っていきたい。
- 3 今後も、生徒をしっかり指導して活動させ、ほめられることで生徒が伸びるということを自覚しながら生徒が活躍する場を増やしていきたい。
- 4 小学校との一貫校を見据え、小学校と協力しながら学校の教育目標の検討など準備を始めていきたい。また児童生徒の交流機会もさらに増やしていきたい。